

教科等研究会（中学校音楽部会） 平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

イメージを伝え合い、協働する喜びを感じる音楽科授業

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/24	10	嘉島中	8/6	甲佐中	講習 熊本県立教育センター 村上指導主事	9/25	甲佐中	甲佐中 村岡教諭	1/24	木山中	実践報告会

3 研究の概要

(1) 研究の内容

「研究テーマについて」

平成20年度告示の学習指導要領から「共通事項」が示され、音色やリズムなどの音楽を形づくる要素を手がかりに、思い描いたイメージを音楽表現へと具現化する授業を進めていくこととなった。そこで本部会では「共通事項」を手がかりとした授業実践を考える上で重要になる「言語活動」について研究を行うこととした。そして、言語活動を授業実践にどのように取り入れていくのかについて、今年度も研修を深めていくことになった。

第1回の教科等研で言語活動を取り入れていく中で課題となることを話し合い、授業展開を考える上で、複数人で話し合う活動をどのように行うかについて話題が集まり、言語活動の中でも特にペアやグループでの活動に絞り、授業の中でどのように実践していくのかについて研究することにした。

また、学習指導要領解説に述べられている音楽科における言語活動のポイントには、「生徒の実態とねらいに応じて、多様な学習形態を取り入れ、友達と思いや意図を共有しながら音楽表現をして、協働する喜びが感じられるような授業を展開する」と示されている。

以上のことから、「協働する喜びを感じる」言語活動を中心として研究を行った。

「研究の流れについて」

研究テーマに沿って進めていくために、実践授業における「協働する喜びを感じる」言語活動の具体的な場面を話し合い、以下の3つを考えた。

- ① 小アンサンブルなど様々な編成を工夫して、生徒が表現したい方法や形態を選択して取り組むなど、生徒一人一人が個性を発揮し、主体的に活動できる場面
- ② 合唱や合奏等、学級全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合う場面
- ③ 鑑賞で楽曲の特徴を感じ取る過程で、ねらいに応じて、感じ取ったり気づいたりしたことを音楽の要素と関わらせながら話し合う場面

第1回研修会では、上記の①～③について検討を行い、決定した。

第2回研修会では、熊本県立教育センターから村上龍次指導主事をお招きし、新学習指導要領実施に向けての取組み、実践上のポイントについて講話していただいた。そして、第3回研修会で②について授業研を行うため、指導案の検討を行った。

第3回研修会では、②について研究授業を実施した。「生徒の思いや意図を基に音楽の要素と関わらせながら表現活動を行うために、グループで話し合ったり、全体で発表したりするなどして、感じ取ったことを音楽の要素と関連させながら活動する場を設定する。」などの意見が出された。

第4回研修会では、上記①～③について各学校での実践の報告会を行った。また、来年度に向けて年間計画及び評価基準について再検討をした。

(2) 成果と課題

「本年度の成果」

- 第1回研修会では、これまでの授業実践を振り返り、できていること、できていないことについて話し合いを行った。多くの意見が出され、研究目標を深めることができた。
- 第2回研修会では、講師を招聘して新学習指導要領に向けての実践についての研修を深めた。具体的な実践事例を多く提示していただき、大変分かりやすく今後の授業改善に役立つ研修会となった。
- 第3回研修会では、小学校の先生方にも参加いただき、合同で参観授業、研究協議を行った。歌唱の実践で、活動の視点が明記されたワークシートや掲示物、グループで活動する場など、歌唱表現の工夫をさせるための工夫がされていた。研究協議では、ペアやグループで活動するために教材や教具の工夫の仕方や活動の在り方について検討した。
- ペアやグループで話し合うだけに終わらず、最後にもう一度生徒が一人で考える場面をつくり、自分の意見をまとめる時間を確保することで、生徒がしっかりと考えた上で表現の工夫や感想などを書くことができていた。
- 小学校の実践を紹介いただき、小中がつながりのある実践ができるように小学校で押えておきたい項目や、身につけさせたい技能等について、意見を出し合うことができた。
- 第4回研修会では、前年度までの実践を踏まえて学習の流れが把握しやすいワークシートや、創作の新たな分野の実践報告が増え、研究テーマに沿った議論を深めることができた。

「来年度への課題」

- ▼ 新たに採用された楽曲の指導法について研修を行う必要がある。
- ▼ 実践報告会で、「言語活動」を活かした授業実践について、互いの実践を持ち寄る機会をつくる。特に、教材や教具について実践を出し合う。

4 実践事例

題材 「歌詞の内容や曲想を味わい、合唱の表現の工夫をしよう。」

教材 「unlimited」 教育芸術社 P. 60

(1) 授業の概要

【参観授業】

本題材は、中学校学習指導要領の第1学年の(1)A表現の内容における、(1)ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」及びウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」に関する学習内容である。

本時では、「unlimited」(教育芸術社 P. 60)の歌唱に取り組み、歌詞の内容や曲想を感じ取り、曲に対するイメージや感情を広げながら、思いや意図を持って創意工夫し表現する場面であった。

活動の視点を板書し、表現する手助けとなる掲示物等により活動が可視化され、グループで練習する場を設定する等、工夫された授業であった。生徒達は歌詞を手がかりに音色や強弱等を工夫し、グループで練習することができていた。また、教師に質問して曲に対しての思いを表現するための具体的な方法を模索する姿が見られ、意欲的な学習活動となっていた。

【研究協議】

成果として、

- グループの学習形態に対して板書等の工夫がなされ、効果的な言語活動が行われていた。
- 生徒達の歌声を録音して聴かせることで客観的に考えたり、電子黒板を使い指導のポイントを示す等ICTを効果的に活用したりする等、生徒が意欲的に活動を行っていた。

課題として、

- ▼ 音楽は、言葉だけでは伝えられないイメージがあり、それは実際に歌ったり演奏したりすることで伝わることもある。話し合い活動では、言葉で説明するだけでなく歌って伝えることも言語活動を考えられるので、指示の工夫が必要である。
- ▼ 「声が合っていた」「上手だった」等の教師の評価は意欲を喚起するが、具体的な次の活動につながらないので、「音程が合っていた」「歌いだしが揃っていて上手だった」等、声かけを工夫すると、段階的に学習を深めるような授業になる。

(2) 学習指導案

第1学年3組 音楽科学習指導案

指導者：甲佐中学校 教諭 村岡 美紀子

1 題材名 歌詞の内容や曲想を味わい、合唱の表現の工夫をしよう。

教材名 「unlimited」 桑原 永江 作詞／若松 欽 作曲（教育芸術社 p. 60）

教材名 「マイバラード」 松井 孝夫 作詞／作曲（教育芸術社 p. 68）

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領の第1学年の(1)A表現の内容における、(1)ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」及び、ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」に関する学習内容である。学習指導要領、内容アでは「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現したい思いや意図をもって表現を工夫して歌う能力を育てること」を、内容ウでは、「音楽構造におけるそれぞれの声部の役割、声部同士が関わることで生み出される全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う能力を育てること」をねらいとしている。

歌詞の内容や曲想を感じ取り、曲に対するイメージや感情を広げながら、思いや意図を持って創意工夫し表現することができると思う。そして、歌詞の言葉の意味や歌詞の内容に共感したりイメージしたりして、曲想と音楽の要素を結びつけ、思いや意図を持って歌うことで、音楽の楽しさを感じることができると思う。また、声部の役割や全体の響きを感じ取って表現を工夫しながら、合わせて歌うことで、合唱を協働しながら作り上げる喜び実感できると考える。

「unlimited」は、未来の扉の前に立つ誇らしさと内省的な感情の二つを抱えて歩きだそうとする若者の姿を表した歌詞の内容になっている。この曲を通して、自分の未来と照らし合わせ、歌うことができる。また、混声二部合唱で、男女の旋律の掛け合いをしながら、曲が高揚し、思いや気持ちを表現することができる曲である。

「マイバラード」は、混声三部合唱で、2拍3連符のリズムに乗って、明るく元気に歌い上げる曲であり、変声を始めた男子生徒も取り組みやすい曲である。

【共通事項】においては、音色、リズム、旋律、強弱を知覚させ、なぜ、その部分に音楽記号などがつけられたのか考えたり、それらの働きによって生み出される音楽の特徴を感じさせたりしながら、歌詞の内容にあった合唱の表現を思考錯誤し工夫することで、生徒自らが主体的・対話的で深い学びを目指すことができると考える。

(2) 系統について (省略) (3) 生徒の実態について (省略) (4) 指導観 (省略)

3 題材の目標

- (1) 歌詞の内容や曲想を感じ取り、思いや意図をもって表現を工夫する。
- (2) 楽曲の構成を理解して、声部の役割と全体の響きを感じ取り合唱の表現を工夫する。

4 題材の評価の規準

(ア)音楽への関心・意欲・態度	(イ)音楽表現の創意工夫	(ウ)音楽表現の技能
・言葉の抑揚やアクセント、リズムを生かして、正しい音程とリズムで歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・歌詞の内容などに関心を持ち、思いや意図を持って歌唱表現を工夫することに意欲的である。	・「unlimited」、「マイバラード」の歌詞の内容や曲想を感じ取り、音色、リズム、旋律、強弱を知覚し、どのように歌うか、思いや意図をもって表現の工夫をしている。	・歌詞の内容や曲想を生かして歌唱表現するための発声や発音などの技能を身に付けて歌っている。 ・声部の役割を生かし、全体の響きに調和させるための技能を身に付けて歌っている。

5 指導計画及び評価基準

時	学習活動 【共通事項】	指導上の留意点	評価の観点				評価基準及び 評価方法
			関	創	表	鑑	
1	「unlimited」の音程を確認しながら歌う。 【旋律、リズム】	・音程とリズムに気をつけて音取りをさせる。 ・曲想や曲の特徴を感じ取りながら、歌わせる。	○				(ア)正しい音程とリズム、曲想に気をつけパート練習に意欲的に参加している。 【自己評価シート・観察】
2	「マイバラード」の言葉のアクセントやリズムに気をつけ、各パートの旋律を歌う。 【旋律、リズム】	・言葉の語感やリズムを合わせるよう意識させ、音取りをさせる。 ・難しい音程やリズムをパートごとに確認する。	○		○		(ア)言葉やリズムに気をつけ、パート練習に意欲的に参加し音取りをしている。 (ウ)言葉のアクセントやリズムを意識して発音し、ブレスに気を付けて歌っている。 【自己評価シート・観察】
3	「マイバラード」の歌詞の内容と曲想の変化を味わい、場面ごとにあつた表現の工夫をする。 【リズム、強弱】	・各部分に合う表現を歌詞の内容から考えさせ、音楽記号も意識させながら、パートごとに表現を工夫させる。	○	○			(ア)歌詞の内容と曲想から、音楽表現を工夫する活動に意欲的に参加している。 (イ)曲想を感じ取り、歌詞に合う音色、強弱を、思いや意図をもって工夫している。 【自己評価シート・パートでの発表の観察】

4 本 時	「unlimited」の歌詞の 意味を考え、強弱の工夫 をする。【強弱、音色】	・歌詞の内容や曲想を感じ取り 曲にふさわしい強弱の表 現の工夫をさせる。	○	(イ) 歌詞の意味を考え、どのように強弱表現を して歌うとよいか、思いや意図を持って工夫をし ている。【自己評価シート・観察・個人の記述】
-------------	---	--	---	---

6 本時の学習

(1) 目標

歌詞の内容や曲想を感じ取り、曲にふさわしい音楽表現の工夫をして合唱をすることができる。

(2) 評価

【表現の創意工夫】

B基準：歌詞の意味を考え、思いや意図を持って強弱表現の工夫をすることができる。

A基準：よりよい合唱にするために、新たな意見を付け加え、表現の工夫を高めることができる。

(3) 【共通事項】強弱、音色

(4) 本時の学習の工夫

視覚的に音楽を表すことで、友だちと音楽を共有し工夫することができるようにする。

(5) 展開

過程	時間 熊本型	学習活動	発問・指示	指導上の留意点及び評価
導入	5分	1 発声練習をする。 2 「unlimited」の1番を 歌う。 3 本時のめあてを確認す る。	1 「発声練習をします。」 2 「unlimited」の1番を歌いま す。」 3 「めあてを確認します。」	○姿勢、口形、声の響きを意識さ せる。
本時のめあて：「箱庭の空」から「unlimited」の部分を、歌詞の意味を考え、強弱表現を工夫して歌おう。				
展開	15分 徹底	4 「箱庭の空」からの録音 を聴き、歌詞にあった表現 の工夫を考える。 (1) デジタル教科書で聴き、 強弱記号と言葉の意味を 確認する。 (2) 自分たちの合唱の録音を 聞き、気づきを発表する。 (3) 歌詞や曲に合った表現に するために、どのように歌 うと良いか、表現の工夫を 考え、付箋紙に書く。	4 (1) 「この部分の強弱記号は、 何ですか。」「箱庭とは何です か。」 「『unlimited』とはどんな意 味ですか。」「『未来の地図』と は何ですか。」 (2) 「録音を聞いて、強弱の表現 は、どうでしたか。」 (3) 「どの言葉やどのタイミン グから、クレシェンドをつけてい くと、箱庭を飛び出し、限界を 超え、未来への地図を広げてい くような歌になるか、工夫を考 え付箋紙に書きましょう。」	4 ○強弱記号の読み方と意味を 確認させる。 (ICTの活用) デジタル教科書で、音と楽譜で 確認させる。 ○「箱庭の空」「未来の地図」の 意味を確認し、クレシェンドを どのようにつけて歌うとよい か、表現の工夫を付箋紙に書か せる。 ○色画用紙に書いた歌詞や強弱 記号などホワイトボードに板 書することで、可視化し、思い や意図を深めさせるようにし、 発問の工夫を行う。
	15分 能動	5 個人で考えた強弱表現の 工夫を伝え合い、パート練 習をしながら、パートの表 現の工夫をする。 (1) 個人で考えた表現の工夫 の付箋紙を拡大楽譜に貼 り、表現の工夫を意識して 歌う。 (2) 表現ヒントカードを使い 、お互いに意見を交換しな がら、思考錯誤し、深める 。	5 (1) 「パートに分かれ、『箱庭 の空』から『unlimited』に向 けて気持ちも音楽も高まって いくような、クレシェンドの 表現の工夫をします。」 「個人で考えた表現の工夫の 付箋紙を大きな楽譜に貼り、そ れを意識して歌ってください。」 (2) 「何度も歌う中で、よりよい 工夫になるように、表現の工夫 ヒントカードを基に、パートの 表現の工夫を深めていって ください。」	5 ○各パート、タブレットを用いて 、繰り返し歌いながら、表現の 工夫を高めさせる。 (ICTの活用) タブレットで音源を部分的に 再生する。 ○表現の工夫をする中で、拡大楽 譜に工夫を加えたり、教師と共 に練習する中で対話したりし ながら、深めさせる。 ○表現の工夫のヒントカードを 基に、思考のきっかけを作る。
まとめ	15分	6 本時のまとめと振り返り をする。 (1) 各パートの表現の工夫を 発表し、1番を歌い合わせ 、録音する。 まとめ：歌詞の意味や思いを考え、クレシェンドの仕方を工夫 することで、合唱表現が豊かになる。 (2) 録音を聴き、工夫をする 前とどのように合唱が変 わったか、歌う時の意識が 変わったか振り返り、発表 をする。	6 全体で合わせ、録音し、歌詞 の思いを考え、クレシェンドの 仕方を工夫することで、表現が 豊かになることを確認する。	◆評価の観点(イ) 強弱など音楽の諸要素を用い て、思いや意図を持って表現の 工夫をすることができる。 ○まとめでは、全体で合わせ、表 現の工夫の高まりを実感させ、 本時のめあてが達成できたか、 確認をさせる。 ○録音を聞き、工夫をすることで 、今日の授業の振り返りを行い 、合唱コンクールに向け、意欲 を高めさせる。

<B基準に達しない生徒への手立て>

強弱記号を意識させたり、友だちの工夫を参考にさせたりして、表現の工夫ができるよう促す。